

外来化学療法部

■ スタッフ

部長	水野聡朗
副部長	小林哲 問山裕二
看護師	小林やよい
薬剤師（主任）	日置美紀 石橋美紀

■ 診療科の特色・診療対象疾患

1. 外来化学療法部とは

近年、がんに対する薬物療法は、目覚ましい進歩を遂げ、外科手術、放射線治療、内視鏡的治療、IVRの治療とともに重要な位置を占めています。様々な腫瘍で薬物療法が実施されていますが、その多くが、生活の質（Quality of Life：QOL）の観点から外来治療として実施されています。

このような背景から、2015年5月にオープンしました新外来棟では、外来化学療法部は治療ユニットを34に増床し、増加する外来治療に適切に対応できるよう体制整備を行いました。

2. 主な診療対象疾患

がん薬物療法を専門とするスタッフ（医師、看護師、薬剤師）のもと、関係する診療科と緊密に連携して治療を行っています。

標準的治療のほか、新規治療開発のための臨床試験、治験なども受け入れております。

主な対象疾患は、治療・領域別に分けますと下記のように分類されます。

- 固形腫瘍（肺癌、乳癌、消化管腫瘍、肝癌、胆道癌、膵癌、婦人科癌、泌尿器癌など）に対する化学療法、分子標的治療
- 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫など造血器腫瘍に対する薬物療法
- 小児がんに対する薬物療法
- 炎症性腸疾患・リウマチに対する薬物療法

■ 診療体制と実績

新外来棟での診療も1年が経過し、治療実施数も着実に増加してきました。この1年は、治療実施数

の増加だけでなく、増加に伴い懸念される医療事故を予防するため、システム上の様々な問題点の検証・改良を行いました。具体的には、新外来棟での状況に合わせた利用手順マニュアルの改定、緊急時連絡先（診療科別）の確認、薬剤アレルギー対応マニュアルの改定などを行いました。

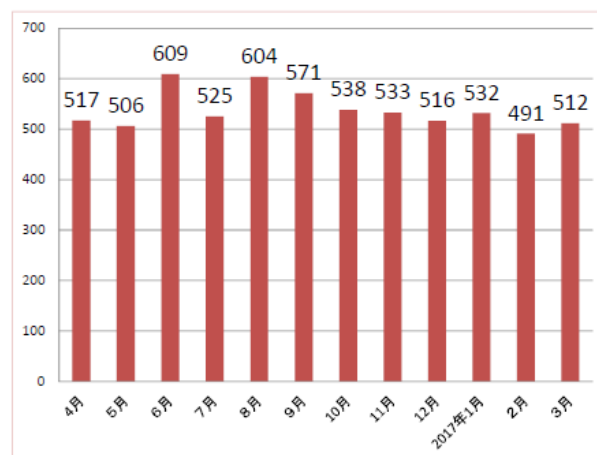
また、臨床試験・治験などの外来治療の依頼も増加してきました。これらの治療においては、通常治療と異なり、治療中の厳密なバイタルのモニターや薬物動態の採血を要する場合があります。このような要望に対応するため、治験専用ベットの整備、指示簿の作成、治験コーディネーター（CRC）など治験管理センターのスタッフとの連携を強化しています。

2016年4月から2017年3月までの診療実績を以下に提示します。

● 月別の治療実施件数

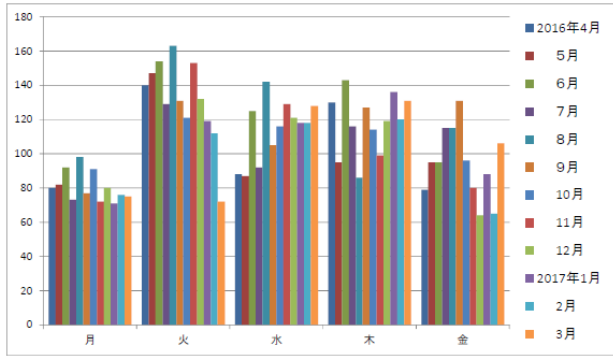
新しい病棟でのシステムも軌道にのり外来化学療法加算の月別件数も平均537と安定してきました。

（1）外来化学療法加算月別件数（2016年4月～2017年3月）



● 曜日別実施数

曜日別（下記棒グラフ）でみると、月曜の実施数が若干少ない状況ですので、診療科の実施日の調整により、さらに実施数増加を検討しております。



● 診療科別の実施件数

診療科別の実施数、大きくは変わっておりません。腫瘍内科、肝胆膵外科、呼吸器内科、消化管外科、消化器内科の実施が多い状況です。

今後、新たな診療科からの受け入れについても検討しております。

(4) 診療科別月別件数(2016年4月～2017年3月)

診療科名	整形外科	皮膚科	腎臓科	小児科	耳鼻科	皮膚科	泌尿科	呼吸器科	腎臓科	血液科	腫瘍科	消化科	外科	小児科	内科	合計
2016年4月	16	9	7	15	1	0	9	40	58	1	13	202	53	89	2	517
5月	21	12	10	12	0	2	10	27	83	1	15	185	45	92	4	536
6月	22	18	13	17	0	3	5	49	83	1	32	206	82	95	2	636
7月	16	22	17	12	0	5	2	41	75	1	21	174	52	83	3	525
8月	20	27	17	24	0	6	2	46	82	0	33	207	55	82	1	604
9月	20	30	15	14	0	4	5	48	79	0	32	187	46	85	5	571
10月	16	27	14	16	1	5	5	43	68	0	21	173	61	84	3	538
11月	13	15	14	22	0	5	2	39	68	0	23	192	60	76	3	533
12月	14	24	11	17	0	4	1	44	48	0	24	181	62	81	3	516
2017年1月	18	26	17	15	0	7	5	31	55	0	15	170	68	100	3	532
2月	15	31	10	16	0	0	4	37	57	0	20	148	60	86	5	491
3月	17	31	22	13	0	2	8	33	59	1	15	147	72	86	6	512

■ 臨床研究等の実績

・がん薬物療法セミナーの開始

本年度からは新たな取り組みとして、外来化学療法部主催（後援：三重大学がんセンター）でがん薬物療法セミナーを開催しました。

第1回として2017年2月16日に、発熱性好中球減少症をテーマに、医師・看護師・薬剤師等の多くの職種が参加して行われました。今後も副作用対策を中心に、2～3ヶ月毎に継続していく予定です。

支持療法に関する最新の情報を共有し、入院治療、外来治療のいずれにおいても質の高い治療が提供できるよう、情報発信に取り組んでいきます。

<http://www.hosp.mie-u.ac.jp/> (ホームページ)